

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社 Konno		
事業所名	グループホームたんぽぽ	ユニット名	A棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦米谷73-3		
自己評価作成日	令和 5年 8月 22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 9月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あたりまえの生活が出来るようにその方に合わせた支援に努めています。特に食事に関して利用者様方からも好評で目の前にあるキッチンで音、匂いが感じられ出来立てを食べて頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR小牛田駅より車で10分、国道108号線沿いの田園地帯の一角に2ユニットの「グループホームたんぽぽ」がある。暖かい日は、ホームの周辺の散歩やウッドデッキでおやつを食べたり外気浴をしている。コロナ感染症も落ち付いてきている中、近くの公園でテーブルを持ち込み焼きそばや焼き鳥を食べて、花見を楽しんだ。面会も窓越しから外での直接面会やLINEを使ったオンライン面会を行っている。入居者は広告紙で箱入れを作ったり趣味の編み物をしたり、職員と一緒に家事をしたり、ゲームや体操をする等、一人ひとりを尊重したケアに取り組んでいる。職員も笑顔を大切に日々寄り添った介護を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム たんぽぽ)「ユニット名 A棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の大掃除の際、理念を唱和しています。	法人理念を基に、今年の4月、各棟で話し合い作成した目標を各棟ホールに掲げ、職員で共有している。入居者の思いを大切に生活や行事、日々の暮らしの中で寄り添い、笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	避難訓練に地域の協力者の方に参加して頂いています。	近所への散歩に、庭の花を見せて貰ったり、野菜の差し入れがある。敷地内の除草や燃えないゴミの収集等に地区の方の協力がある。地元高校の吹奏楽部の生徒によるオンラインコンサートをテレビの前で鑑賞した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設への奉仕作業や避難訓練などへのさんかをして頂いております。また、収穫した農作物などを差し入れしてくれます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っています。意見はその後、全職員に共有し対応しております。	町職員や区長、民生委員、家族会正副会長が参加している。今年2月よりホームで開催している。メンバーより「面会が窓越しでなく直接外で会うことが出来て嬉しい」や「お花見を実施され良かった」など意見があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1度、運営推進会議の際構築しています。	介護認定の更新の手続きや事故報告をしている。地域包括とホームの空き状況やキャラバンメイトの開催について連絡がある。町のグループホーム連絡会や福祉避難所についての研修会に管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、身体拘束の研修を行っています。仕方なく身体拘束する場合家族に同意を得て、毎日カンファレンス、3ヶ月ごとに1度行われる身体拘束委員会にて見直し等行っています。	虐待・身体拘束適正化委員会で、ベット上からの転倒や転落防止の為4点柵の必要性があり、使用の継続について家族の同意を得ている。帰宅願望の方は、居室で寄り添い傾聴し落ち着いている。近隣の方への理解や見守り、声掛け等の関係構築を期待したい。	帰宅願望の方がいることから、近隣の方々に理解を求め、見守りや声掛け、連絡をもらえる関係構築に努力されたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回高齢者虐待防止の研修を行っています。	勉強会で、スピーチロック等、虐待に繋がる事を理解し、虐待防止に努めている。管理者は、職員の疲労やストレスがケアに影響しないかを把握し、一人に負担がかからないよう、シフトの調整など行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体ミーティング等で研修を行い学んでいます。コロナ禍で外部研修に参加できていない状況です。成年後見制度を利用されている。利用者さんがおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約する際など説明をいを行い、理解納得を図っています。十分な納得を頂いた上で署名押印を頂いております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	FAからの電話時、面会時等、その都度訪ねております。	窓越し面会から、玄関やデッキ、LINEビデオや電話で実施している。「家が心配」と本人の希望があり、職員と一緒に家を見に行った。家族会の正副会長が運営推進会議に毎回出席し、意見を貰っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大掃除の時カンファレンスを設けています。	いつでも発言することが出来る。長期入居している方に、床ずれ防止にエアマットを使用した。コロナ禍で、アルコールが手に入らない時、ネットで購入した。職員の家庭の事情に応じたシフトの配慮を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の生活環境、体調等の状況を配慮し、シフト調整をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規入社した職員に同行研修を行います。業務内容を把握して頂き、不足部分の指導を実施しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で勉強会などに参加出来ていない状況です。町で開催の連絡会や会議等に参加し交流を図り、サービスの質の向上に努めています。	町のグループホーム連絡会に参加し、コロナ禍での面会や職員の人手不足の対応など情報交換している。集団指導会議で避難訓練のマニュアル作成などを話しあった。地元の薬剤師に薬について説明して貰った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の安心出来る環境づくりに取り組み、その都度不安な事には傾聴し、良い関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望等を把握に努めCM、NSと共に良い関係構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で情報共有し、その都度適切な支援を見極めて提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かせる様、支援に努め、関係を築いています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日々の様子を写真等で伝え、変化があれば、その都度連絡を密に取るようにしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の大切にしている習慣が継続できる様支援に努めています。	孫の結婚式の写真を見せに家族が来訪している。地元青森の親類から好物の鮭や筋子が届く。通院の帰りに家族と墓参りをして来る。居室で気の合う者同士、テレビを見たりお喋りをしたり楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様ごとの趣味、思考、相性を把握し、孤立しない様、配慮に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は必要に応じて対応させて頂いております。ご家族様などにお会いした際などご本人様の様子などを伺ったりしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望、意向にそえるサービスを提供出来るように努めています。	美容師の修業中に苦労したことや息子の運転で温泉に行き楽しかったことなど昔話を傾聴している。地元青森で食べていた「すじこを食べたい」方は親類から送って貰ったり、「のど自慢を見たい」など思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方環境を踏まえ、サービス利用の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル確認、TV鑑賞、排尿、排便、食事量などのチェックをする事で現状の把握に努め対応しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMを通して関係者と話し合い、意見を交換しています。	本人や家族の意向を職員間で話し合い作成している。「穏やかに楽しく暮らしたい」方は個別の対応に心がけ、本人の好きな食べ物を提供している。退院した方は、体調が悪化しないよう観察を続け訪問診療に繋げた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミニカンファレンスを行い、気づきなどをスタッフ同士で共有し、記録しています。月1回全体会議、カンファレンスを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況の状況を把握しニーズに合わせた対応に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族会と包括支援や地域との連携を密にして支え合っています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期通院や月2回の往診を受けています。利用者様の身体の変化を知る事の出来る大事なことです。	7名が協力医の訪問診療である。他の方は、かかりつけ医に職員が付き添い、バイタルと状況を説明し受診している。夜間や緊急時は、管理者や看護職員に連絡し対応している。歯科医の訪問診療もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していることで利用者様の体の異常を常に聞くことができます。異常がある場合などすぐ連絡を取る体制を作っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が身体に異常あった時、かかりつけの病院医師に相談できています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体に異常の訴えあった際はかかりつけ医と連絡を取り、家族様に施設での状況を伝え、対応しています。	入居時に「グループホームたんぼぼに於ける看取り介護に関する指針」を家族に説明し同意を得ている。重度化した場合、医師家族と出来ること、出来ないことを話し合っている。病院に入院することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に応急処置などの手順を踏まえてすぐに実行出来るようにしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員ハザードマップを見て避難場所把握し、火災、地震、、水害等に備えています。年2回避難訓練を実施しております。	年2回(夜間想定を含む)初期消火や通報、避難誘導など地域の方の参加で実施した。冬場に避難する場合、寒さ対策で毛布など身近にある物で対応することや水害時の避難場所を小牛田農林高校にするなど確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、尊厳を守り出来ることを見つけていけるように努めています。不穏な時は傾聴し落ち着く対応しています。	名前は「さん」付けで呼んでいる。本人に聞いて「ちゃん」と愛称で呼ぶ方もいる。入居者と接する時は、同じ目線で寄り添い、思いを汲むようにしている。編み物が好きな方が、毛糸で帽子を編んで皆さんに配った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での会話の中で本人の意志を尊重し、自己決定できるように対応しています。おやつや洋服を選んでんらったりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿った支援を心がけています。	一人ひとりの体調を把握し、その日をどのように過ごしたいか、本人の希望に沿った支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗面、整容を行っています。2ヶ月毎に床屋の訪問により散髪を実施しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りで毎食提供しています。食事形態や盛り付けも個々に工夫しています。下膳、テーブル拭きも一緒に行っています。施設で収穫した畑の野菜も活用しています。	ホームの畑や家族、近所の方が持って来た旬の野菜等を取入れ、職員が調理している。誕生日には、希望でお刺身や赤飯を食べた。お好み焼きなどを一緒に作って食べた。献立は町の管理栄養士に見て貰う。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べれる量を把握し、栄養バランスが摂れるように摂取量管理に努めています。水分制限のある利用者の1日の摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施し、声掛け、一部介助、全介助と個々に適した支援を行っています。定期的に訪問歯科の治療を受け、先生の助言を共有し、実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し支援しています。訴えのできる方はその都度対応しております。	自力の方や、落ち着きが無くなる等サインを把握し、声掛けでトイレに行っている。車椅子の方も出来る事を見守り、トイレ排泄の自立に繋げている。夜間は、声掛けやパッドの大きさ、ポータブルトイレなど個別対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因を理解し、看護師に相談しながら支援しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	3日に1度の入浴介助になりますが一人、ひとりの希望に合わせた入浴、シャワー浴を支援しています。	一番風呂や熱め、同性介助等本人の希望に合わせている。拒む方は、時間を置いたり声掛けに工夫している。湯上りに清涼飲料水や水を補給している。職員と家族の話をしたり歌を歌ったり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその時の状況に応じ、本人の希望を取り入れながら、休息、よく眠れる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や分量について理解して支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが希望楽しみを持ち、生活できる様に毎月誕生日や色々な行事の支援を行っています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、混み合う所への外出は出来なかったが、施設近の花見や散歩の外出支援を行っております。	暖かい日は、ホームの周辺を散歩したり、ウッドデッキでおやつを食べ水分補給をしたり外気浴をしている。近くの公園に花見に出かけ焼き鳥や焼きそばなどを食べた。ドライブで古川の古代の里に弁当持参で出かけ、アヤマ見物をした。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては家族が管理されております。本人の希望に応じ買物など出来るよう支援していますが後日家族に請求となります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人に代わって頂き会話したり、手紙も 本人に渡し、読んで頂いたりと支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に関しては清潔を保ち、月1回の大掃除には全スタッフが対応し、居心地よい環境作りに努力しています。	ホールは日当たりが良く明るい。コロナ禍の中、換気をしたり手摺りなど消毒している。温湿度も適切で床暖房を設置し、快適に過ごせるように配慮している。近所の方から貰った吊るし雛を飾り、テレビを見たり体操やゲームをしたり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間の中では利用者さん同士の会話を楽しんで頂く様に時折席替えなどして工夫しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はなるべく御自宅で過ごされていた時と同様に過ごせる様に好みの物や家族さんの写真を飾るなど工夫しています。	居室にタンスや小物入れ、テレビ、携帯電話など持ち込んでいる。ひ孫の描いた敬老祝いの絵や自作の絵のカレンダーを飾っている。好きな本を読んだり、縫物をしたり、テレビを見たり、家族に電話するなど過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部はトイレの場所や、洗面所などわかりやすい様に矢印をしたり大きく書いた字などで表示し誰でもわかるよう工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社 Konno		
事業所名	グループホームたんぽぽ	ユニット名	B棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦米谷73-3		
自己評価作成日	令和 5年 8月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人の気持ちに寄り添い、真心を込めて接しております。今までの生活の延長線上の様な温かみのある家庭的な雰囲気を中心掛けております。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 9月 8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR小牛田駅より車で10分、国道108号線沿いの田園地帯の一角に2ユニットの「グループホームたんぽぽ」がある。暖かい日は、ホームの周辺の散歩やウッドデッキでおやつを食べたり外気浴をしている。コロナ感染症も落ち付いてきている中、近くの公園でテーブルを持ち込み焼きそばや焼き鳥を食べて、花見を楽しんだ。面会も窓越しから外での直接面会やLINEを使ったオンライン面会を行っている。入居者は広告紙で箱入れを作ったり趣味の編み物をしたり、職員と一緒に家事をしたり、ゲームや体操をする等、一人ひとりを尊重したケアに取り組んでいる。職員も笑顔を大切に日々寄り添った介護を実施している。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームたんぽぽ)「ユニット名 B棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1回の全体会議で揃った際に理念の唱和を行っております。	法人理念を基に、今年の4月、各棟で話し合い作成した目標を各棟ホールに掲げ、職員で共有している。入居者の思いを大切に生活や行事、日々の暮らしの中で寄り添い、笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設への奉仕作業や避難訓練などへの参加をして頂いております。また、収穫された農作物を頂いたりしております。	近所への散歩に、庭の花を見せて貰ったり、野菜の差し入れがある。敷地内の除草や燃えないゴミの収集等に地区の方の協力がある。地元高校の吹奏楽部の生徒によるオンラインコンサートをテレビの前で鑑賞した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長様やご利用者様のご家族への日頃の活動の報告等を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議で生活の様子や月の行事等の報告を行い、皆様の意見を傾聴し今後に取り入れております。	町職員や区長、民生委員、家族会正副会長が参加している。今年2月よりホームで開催している。メンバーより「面会が窓越しでなく直接外で会うことが出来て嬉しい」や「お花見を実施され良かった」など意見があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の会議や研修へ積極的に参加し、施設であった問題点等の相談をしています。	介護認定の更新の手続きや事故報告をしている。地域包括とホームの空き状況やキャラバンメイトの開催について連絡がある。町のグループホーム連絡会や福祉避難所についての研修会に管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での研修や日々のミニカンファレンスでの身体拘束への理解周知を行っております。	虐待・身体拘束適正化委員会で、ベット上からの転倒や転落防止の為4点柵の必要性があり、使用の継続について家族の同意を得ている。帰宅願望の方は、居室で寄り添い傾聴し落ち着いている。近隣の方への理解や見守り、声掛け等の関係構築を期待したい。	帰宅願望の方がいることから、近隣の方々に理解を求め、見守りや声掛け、連絡をしてもらえる関係構築に努力されたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段より身体拘束になりうる行動、言動に注意し、スタッフ同士で確認し合っております。	勉強会で、スピーチロック等、虐待に繋がる事を理解し、虐待防止に努めている。管理者は、職員の疲労やストレスがケアに影響しないかを把握し、一人に負担がかからないよう、シフトの調整など行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修で制度を学び、スタッフ1人1人が理解できる努力をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項をしっかりと説明し、ご家族様の不安や疑問に傾聴し、安心して頂くように努めております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者より理解への報告があり、すぐにご利用者様へ対応しております。	窓越し面会から、玄関やデッキ、LINEビデオや電話で実施している。「家が心配」と本人の希望があり、職員と一緒に家を見に行った。家族会の正副会長が運営推進会議に毎回出席し、意見を貰っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの面談を設け1人1人の意見を聞いています。	いつでも発言することが出来る。長期入居している方に、床ずれ防止にエアマットを使用した。コロナ禍で、アルコールが手に入らない時、ネットで購入した。職員の家庭の事情に応じたシフトの配慮を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が現場に顔を出して頂き、スタッフとのコミュニケーションを図り現場の声を大切にしておこなっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフへ参加したい研修等を聞き参加出来るように手配をしています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナも5類になり外部研修も出来るようになってきたので参加して行きたいと思っております。	町のグループホーム連絡会に参加し、コロナ禍での面会や職員の人手不足の対応など情報交換している。集団指導会議で避難訓練のマニュアル作成などを話しあった。地元の薬剤師に薬について説明して貰った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事要望に耳を傾け、安心して過ごして頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と話し合いを行い、常に電話やメールでやり取りできるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合い等で必要としている支援をスタッフ、ケアマネと相談し対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様にも洗濯物をたたんで頂いたり、干して頂いたりできることは一緒にしております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族、両方の意見を大切に支援して行けるよう努めております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望と馴染みの方々等の希望に寄り添い、面会や手紙等での関係を継続して頂いております。	孫の結婚式の写真を見せに家族が来訪している。地元青森の親類から好物の鮭や筋子が届く。通院の帰りに家族と墓参りをして来る。居室で気の合う者同士、テレビを見たりお喋りをしたり楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人に合わせて席を決めたり、全員に声掛けしながら関わりを持ってもらえるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は必要に応じて対応させて頂いております。ご家族様などにお会いした時など生活の様子などを伺ったりしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を尊重し出来る限りの対応しております。	美容師の修業中に苦労したことや息子の運転で温泉に行き楽しかったことなど昔話を傾聴している。地元青森で食べていた「すじこを食べたい」方は親類から送って貰ったり、「のど自慢を見たい」など思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方環境を把握した上でより良いサービス利用が出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけ、様子観察で現状の把握に努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ同士で毎日ミーティングで話し合い、ケアマネ相談し必要に応じてご家族にも連絡を取っています。	本人や家族の意向を職員間で話し合い作成している。「穏やかに楽しく暮らしたい」方は個別の対応に心がけ、本人の好きな食べ物を提供している。退院した方は、体調が悪化しないよう観察を続け訪問診療に繋げた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子等、日誌に記入し記録を残し、スタッフ同士情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政との連携をしっかりと行っております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期通院や往診でかかりつけ医との連携を実施しています。	7名が協力医の訪問診療である。他の方は、かかりつけ医に職員が付き添い、バイタルと状況を説明し受診している。夜間や緊急時は、管理者や看護職員に連絡し対応している。歯科医の訪問診療もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常の体調の変化を記録し、また急変した際にはすぐに連絡を取れる体制を作っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との細かな連絡をとっております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様やかかりつけ医との連携を取り状況に応じた対応をしております。	入居時に「グループホームたんぼぼに於ける看取り介護に関する指針」を家族に説明し同意を得ている。重度化した場合、医師家族と出来ること、出来ないことを話し合っている。病院に入院することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で行っております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し、行っております。	年2回(夜間想定を含む)初期消火や通報、避難誘導など地域の方の参加で実施した。冬場に避難する場合、寒さ対策で毛布など身近にある物で対応することや水害時の避難場所を小牛田農林高校にするなど確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ、1人ひとりが言葉遣い、対応を意識し行っております。	名前は「さん」付けで呼んでいる。本人に聞いて「ちゃん」と愛称で呼ぶ方もいる。入居者と接する時は、同じ目線で寄り添い、思いを汲むようにしている。編み物が好きな方が、毛糸で帽子を編んで皆さんに配った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に希望されていることとお伺いし、出来る限り叶えられるようスタッフ同士で考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様がしたいことをスタッフが把握し行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と一緒に服やズボンを選んだり行っております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けなど手伝いが出来るご利用者様と一緒にしております。	ホームの畑や家族、近所の方が持って来た旬の野菜等を取入れ、職員が調理している。誕生日には、希望でお刺身や赤飯を食べた。お好み焼きなどを一緒に作って食べた。献立は町の管理栄養士に見て貰う。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の個人記録へ記入し、把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず皆様の口腔ケアを行っております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らす為、一人ひとりの排泄パターンを観察しトイレでの排泄をうながし排泄の自立に向けた支援を行っている。	自力の方や、落ち着きがなくなる等サインを把握し、声掛けでトイレに行っている。車椅子の方も出来る事を見守り、トイレ排泄の自立に繋げている。夜間は、声掛けやパッドの大きさ、ポータブルトイレなど個別対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し飲食物の工夫、体操などをして個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	3日に1回入浴をしています。体調不良や拒否がある場合には時間や日付けをずらして入ってもらっています。	一番風呂や熱め、同性介助等本人の希望に合わせている。拒む方は、時間を置いたり声掛けに工夫している。湯上りに清涼飲料水や水を補給している。職員と家族の話をしたり歌を歌ったり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、その時の状況に応じて休息したり、安心して眠れるように支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人ひとりが利用者が服用している薬の目的や副作用などを理解しており、薬の変更があれば看護師より説明が間違いないよう対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	変化のある日々を過ごせるように一人ひとりの力を活かした役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等の支援をしています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって戸外に出かけるような支援に努めています。本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力して出かけられるように支援しています。	暖かい日は、ホームの周辺を散歩したり、ウッドデッキでおやつを食べ水分補給をしたり外気浴をしている。近くの公園に花見に出かけ焼き鳥や焼きそばなどを食べた。ドライブで古川の古代の里に弁当持参で出かけ、アヤマ見物をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族管理になります。欲しい物がある時には選んで購入し、後日ご家族に請求しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人に連絡したい時に社内にある電機機(LINE、TV電話)を使用し、大切な人と連絡のやり取りの支援をしています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を利用しやすいように生活感や季節感を彩り壁などに飾り付けを行っております。。	ホールは日当たりが良く明るい。コロナ禍の中、換気をしたり手摺りなど消毒している。温湿度も適切で床暖房を設置し、快適に過ごせるように配慮している。近所の方から貰った吊るし雛を飾り、テレビを見たり体操やゲームをしたり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で自分の趣味や気の合った利用者さんと会話を楽しまれたり、居室で一人で過ごせる時間を工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を置き、本人がリラックスして過ごせるような工夫をしています。	居室にタンスや小物入れ、テレビ、携帯電話など持ち込んでいる。ひ孫の描いた敬老祝いの絵や自作の絵のカレンダーを飾っている。好きな本を読んだり、縫物をしたり、テレビを見たり、家族に電話するなど過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ること、理解できることを職員が理解し、自立した生活が送れるように一人一人をサポートしています。		